

文京区基本構想推進区民協議会
コミュニティ・産業・文化部会
(第1回)

日時：平成28年7月13日(水)
18時30分～20時24分
場所：文京シビックセンター4階
区民会議室4階ホール

文京区企画政策部企画課

第1回 コミュニティ・産業・文化部会 会議録

「部会員」	部	会	長	平	田	京	子														
	部	会	員	牛	嶋		大														
	部	会	員	岡	田	伴	子														
	部	会	員	出	井	久	之														
	部	会	員	野	口	眞	寿														
	部	会	員	青	木	和	雄														
	部	会	員	飯	沼	典	雄														
	部	会	員	加	藤	佑	理														
	部	会	員	山	口	一	夫														
	部	会	員	石	井	朋	佳														
	部	会	員	富	永		直														
	部	会	員	村	岡	公	一														
	部	会	員	村	田	展	江														
部	会	員	出	井	久	之															
「幹事等」	企	画	政	策	部	長	吉	岡	利	行											
	区	民	部	長	林		顕	一													
	ア	カ	デ	ミ	ー	推	進	部	長	田	中	芳	夫								
	教	育	推	進	部	長	久	住	智	治											
	企	画	政	策	部	企	画	課	長	加	藤	裕	一								
	企	画	政	策	部	政	策	研	究	担	当	課	長	高	鳥	康	広				
	区	民	部	区	民	課	長	古	矢	昭	夫										
	区	民	部	経	済	課	長	福	澤	正	人										
	ア	カ	デ	ミ	ー	推	進	部	ア	カ	デ	ミ	ー	推	進	課	長	竹	越	淳	
	ア	カ	デ	ミ	ー	推	進	部	観	光	・	国	際	担	当	課	長	熱	田	直	道
	ア	カ	デ	ミ	ー	推	進	部	ス	ポ	ー	ツ	振	興	課	長	細	矢	剛	史	

※文京区基本構想推進区民協議会会長、大杉覚氏が出席した。

○平田部会長 皆様こんばんは。今日はマイクがないので、私のほうも大きな声で言うように気を付けますけれども、皆様も大き目の声でご協力をよろしく願いいたします。

今日は、蒸し暑い中をお越しいただきありがとうございます。雰囲気はインフォーマルな感じで、何か親し気な感じで議論ができるように、ちょっと狭くなってはおりますが、今日、意外と時間が厳しいので、皆様ご協力よろしく願いします。

では、早速、委員の出欠状況や配付資料等について、事務局から説明をお願いします。

○加藤企画課長 皆さんこんばんは。

初めに、委員の出欠状況ですけれども、まだ3人いらっしゃっていませんが、特に遅れるというご連絡をいただいておりませんので、随時いらっしゃると思います。

また、本日のご欠席ですけれども、前川部会員と椋野部会員、2人の方から欠席のご連絡をいただいております。

続きまして、配付資料の説明をさせていただきます。

事前に郵送で資料を5点お送りさせていただいております。1点目が、本日の次第になります。2点目が、分野別部会資料第1－3号、この部会の部会員名簿になっております。3点目が、分野別部会資料第2号になります。「基本構想実施計画の今後3か年の方向性及び指標（案）について」という厚めの資料になっております。続きまして、4点目が、分野別部会資料第3号、「平成28年度の基本構想実現度評価の実施状況について」という資料です。そして、最後5点目が、分野別部会資料第4号、「平成28年度まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理の実施状況について」という資料になります。

また、本日席上に3点資料を置かせていただいております。1点目が、座席表。2点目が第三章、計画事業と書いてあるものですが、これが現在の基本構想実施計画の体系図になっております。現行の計画の体系ということで、参考に置かせていただいております。3点目が、ワークショップのルールについて。今日は、席上に3点置かせていただいております。

お手元に資料がない方、あるいはお持ちいただいていない方については、挙手していただければ、事務局からお持ちできますけれども、資料のほうはよろしいでしょうか。

また、冊子として3点、基本構想と基本構想実施計画と行財政改革推進計画の3点も置かせていただいておりますので、確認のほうよろしく願いいたします。

そして、事務連絡がございます。本日の記録ですが、基本的には発言者のお名前を記載して、全文記録という形で記録させていただきたいと思っております。

また、ワークショップの様子について、写真を撮らせていただきたいと思います。写真を撮られることが困るという方がいらっしゃいましたら、事務局まで、終わった後にお声掛けいただければ、その方の写真については外させていただきますので、よろしく願いします。

以上です。

○平田部会長 ありがとうございます。それでは、今日いつもの会議と違いまして、ワークシ

ワークショップ形式になりますので、次第の2、部会の進め方について、私のほうからご説明します。

今回の分野別の部会では、皆さんはそれぞれの部会に所属していただいているんですが、その中でご審議いただくことは、4点あります。

一つ目が、今後3か年の方向性及び指標、今日の議論の中心となります。後でまた説明しますが、今後3年間の計画をこちらにお座りになっている文京区の関係部署が案を立てるに当たり、皆さんの意見を参考にお聞きしたいわけですね。ですから、今後3年間の方向性とそれから指標、こちらを主に議論いただきます。

また、それだけではなくて、2番目、3番目、4番目を順番にやっていきます。

口頭だけになりますが、2番目は、昨年の実績を評価していただきます。これが基本構想実現度評価ということで、前回説明したものですけれども、具体的には、このような仕組みですね。皆さんのお手元に配付しているこういう資料になります。

この資料、これは2点目に審議していただくため、今日の主題ではないんですが、皆様にご理解いただきたいのは、こちらの資料に皆さんの審議の結果が反映されるということと、指標がここに表れています。それから、数字もデータも出してください。それから、目標とか結果がどうだったのか、どういう問題があったのかが、ここに書かれています。これが、実績の評価シートになりますので、ここに反映されるのが一つです。

最初の、今後3か年の方向性は、ここの部分とかの目標を定めるので、今日は皆さんの目標に関するご意見を中心に伺ってまいります。

3番目です。まち・ひと・しごと創生総合戦略進行管理の実施状況。これは、長いんですけれども、これは次回やります。人口減少社会において、どのようにやっていこうという計画なんです、その戦略の進行管理の実施状況を皆さんに評価していただきます。

最後に、4番目が、政策を実現するための行財政改革ですね。職員の数、前回勉強しましたよね。それから、財政的なことも前回勉強しましたので、それらをどのように合理化していくか。それから、オープンデータをこの前、大杉先生が説明されていまして、オープンデータにしたらいいもの、これは、次回中心的に議論します。

この四つを各部会でご審議いただきます。もう、いろんな日程が、皆さん、複数部会にお出になる方もいらっしゃると思いますので、複雑ですけれども、それらを各部会、2回ずつの審議でやっていきます。

皆さんの意見をなるべく出していただく。それが今日の目的ですので、よろしくお願いします。言いたい意見は漏らさずおっしゃってください。

それで、進め方なんです、皆さんに一枚、「ワークショップのルール」というのが配られています。これは皆さんのお席に置いてある一枚のぺらっとしたものです。ない方は、読み上げますので。

ワークショップというのは、参加型の勉強会でもあり、みんなで意見を交換する場でもありま

す。ですから、一人一人意見が違うんですね。それも全然問題ありません。一つの物事をいろんな意見をお聞きすることで、よりクリエイティブな創造的な議論が可能になりますので、建設的な意見交換を行うために、四つのルールを設けさせていただきます。これは、各分野共通です。

一つは、「正しい答え」はありません。皆さんの議論を基に、皆さんにとってより妥当な「答え」を生み出す過程がワークショップです。ですので、皆さんの思ったことをお聞かせください。前回私が説明しましたように、皆さんの意見を吸い取ってプロが考えますので、皆さんの意見をお出してください。

それから、2番、議論なんですけれども、まず相手の言葉に耳を傾けてください。皆さんもお互いの意見をよく聞いてください。お願いします。

それから、今日、議論をする場に、ペンと付箋が配られています。この付箋が2種類ありますので。ちょっと色が区別しづらいんですが、この付箋のカードに皆さんの意見を書き添えていただきます。お互い見えたほうがいいですね。ここに張っていきますので、見えたほうがいいので、一枚のカードには、この1枚の大きさのこのカードには、全文書かなくて結構です。わかりやすくキーワードでもいいですし、何か単語を書き添えてもいいですし、ちょっとした文章でもいいですけれども、小さく書きますと、ここに貼ったときに見えません。皆さんの意見をここで共有していくために、なるべく文章ではなくて、短い単語のような形で、一つの意見について1枚ですね。キーワード一つに対して1枚お使いになって、大きく書いてください。ペンをそのためにお配りしていますので、字を大きくお願いします。

複数の意見がありましても大歓迎です。この複数の意見は、複数枚、それぞれの、一枚につき一つの意見を書き添えていただくので、キーワード1個みたいな感じですね。2個目が出てきたときは、もう惜し気もなくこれをお使いください。それぞれ別のカードに書き添えていただきます。

これがルールになります。何かルールについてわからない点はありますか。よろしいでしょうか。

○出井委員 この色の違いは何ですか。

○平田部会長 それは、今からご説明いたします。すみません。

とりあえずは、ワークショップのほうはよろしいでしょうか。

それで、このワークショップ形式というのは、皆さんの参加型の勉強会であり、意見交換の場ですので、皆さんのこの意見、審議結果を、基本構想推進区民協議会、大杉先生が司会をしていらっしゃるものに報告します。なので、皆さんの意見を自由におっしゃってください。ここは、そういう意味では、関係のプロが出席していますけれども、皆さんの意見を伺う会になります。

よろしいでしょうか。

それでは、次第の3に入ります。

まず、今日、実はこの部会、四つの分野を審議しなければいけないんですね。一つは、地域コミュニティの話をも最初にやります。次が、産業振興について伺います。それから、結構一杯

あるので、三つまとめて恐縮なんですけど、生涯学習、文化振興、スポーツ振興を一緒にまとめてやります。今日、多分できないんですけども、観光と交流については、次回予定しています。今日、審議がすごくスムーズにいきますと、ここまでいっちゃうんですけど、大体まあそんなところで、お考えください。

皆さんにお願いしたいのは、時間が結構厳しいので、皆さんの意見をまとめていただく時間をまず差し上げて、まず、書くのに専念していただきます。それが終わったら、一人ずつ意見をお伺いしていきます。

そのときのお願いなんですけれども、まず、関係の部からご説明いただくんですけど、それは各皆さんもご協力ください。10分未満でお願いします。それから、皆さんもご協力ください。皆さんの意見を聞いていくのが、およそ一人1分をお願いしたいと思いますので、簡単に、こういう意見とこういう意見とこういう意見ですというのをおっしゃってください。

そうすると、十分に意見交換する時間がとれます。合計、一つのテーマについて25分間あります。ですので、ゆっくり意見を交換していくために、皆様、発言時間にご協力ください。よろしいでしょうか。

今日は、まず地域コミュニティについて。それで、こちらについて意見を伺いますので、これに今から専念してください。地域コミュニティに関して、今後3か年の方向性と指標について考えていただき、どういうのがいいなというのを書いていただきます。参考資料としては冊子もあります。

色合いをご説明します。皆さんのカードなんですけれども、カードの色分けは、ちょっと色の区別がつきにくいので、あまりこだわらずに、思いついた紙で結構ですが、一応、方向性、こういうふうな目標にしたらいいなと思うものは緑色のほう、こちらの色合いになります。それから、指標でこんなのがあったら目標がわかりやすいな、新しいものがほしいなと思った方は青です。ですが、あまり捉われず、目標についてお考えいただいて、どういう目標があったらいいな、文京区をどういうふうにしてほしいなということを地域コミュニティについてお考えください。

色分け、大丈夫でしょうか。色分けにあまり捉われず、皆さんのポイントは、カードに大きい字で書いていただくということです。ペンをお使いください。鉛筆を使わないでこのマジックで、こちらのほうに書いてください。何か思ったことで結構です。よろしいでしょうか。

今から始めさせていただきます。皆さんには、考えるシンキングタイムを5分間差し上げますので、地域コミュニティについてのご意見を、ちょっと考えてみてください。私たちは静かにしていますので、皆さんいろいろ考えてください。今のままでいいよというのも、一つの意見だと思しますので、自由に思いつくままで結構です。挙げてみてください。

大丈夫ですか。始めてよろしいですか。

5分間お願いいたします。一枚につき一つです。

○出井委員 これを読んでからですね。

○平田部会長 ごめんなさい、私、間違えました。説明がないとわからないですよ。何か抜けていますよね。申し訳ありませんでした。初めに、区民部長からご説明をお願いします

○林区民部長 区民部長の林でございます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、分野別部会資料第2号の29ページをお開きください。よろしいでしょうか。

地域コミュニティについて、現状と今後3か年の方向性について、初めにご説明をいたします。町会、自治会など、地域の団体の活動拠点となる地域活動センターは、リニューアルオープンをした施設もありますことから、利用者は増加傾向となっております。「ふれあいサロン」事業の実施数も増えておりまして、実績としては上がってきているところではございますけれども、町会・自治会への加入率、こちらにつきましては、平成24年度が65%、27年度が66.4%とほぼ横ばいの状況となっております。人口は増加をするものの、高齢化や核家族化の進展の影響によりまして、地域コミュニティの希薄化又は地震等の災害の発生時には、防災に対する地域コミュニティの大切さが見直されていることから、地域コミュニティ活動の核となります団体が必要であります。また、町会・自治会の活動を支えていくこと、NPOや事業者などの地域活動団体との協働事業を推進することが必要となっております。

そこで、今後の方向性でございますが、町会・自治会への加入促進、活動支援など、地域コミュニティの活性化に取り組んでまいりたいと考えてございます。

また、地域活動センターの利用促進を図るとともに、おもてなしの心を育むような地域活動の支援を行ってまいります。

さらに、NPOや事業者など、様々な地域活動団体との協働を推進するとともに、新たな協働の担い手を創出することで、地域の課題を解決し、豊かな地域社会の実現を図ってまいりたいと考えております。

1枚おめくりいただきまして、30ページ、こちらが指標となります。

1点目、地域コミュニティの活性化といたしましては、「町会加入率」を指標としてございます。この設定の理由でございますが、地域コミュニティの活性化を図るためには、町会・自治会の継続した運営が必要であり、更なる加入促進を推進することが重要と考えております。今後、平成30年度までの加入率を68%を目指していくというのが、指標と目標数値となります。

続きまして、2点目のコミュニティ意識の醸成につきましては、「地域活動センターの利用人数」を指標としております。この設定の理由ですが、地域コミュニティの活性化には、地域活動団体や地域住民の方々の活動の場が必要でございます。地域活動センター会議室の利用者とふれあいサロン事業などの参加者を合計した利用人数、こちらを指標としたいと考えてございます。

平成29年度は、過去の実績や音羽にございます地域活動センター、こちらがリニューアルオープンすることを踏まえまして、現状の5,000人の増、その後につきましては、毎年度2,500人の増加を目指してまいりたいというのが、目標となっております。

次の31ページになりますけれども、3点目のNPOや事業者などの様々な地域活動団体との

協働事業の推進につきましては、指標を「区との協働事業の件数」としてございます。この設定の理由でございますが、NPOや事業者などの様々な地域活動団体との協働事業を実施することによりまして、地域課題の解決を図り、豊かな地域社会の実現を目指し、過去4年間の平均の増加件数、こちらを踏まえまして、毎年度10件ずつの増を目標としているものでございます。

説明は以上でございます。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。失礼しました。私が、勉強の時間をはしょってしまいました。

あと、皆さんの意見を書いていただく参考資料として、もう一度ご案内しておくと、第3章計画事業と書いた紙、こちらのうち、5ページ目のところに「コミュニティ・産業・文化」というのがあります。ここには、今指標に選ばれているのは、ごくわずかでしかないんですね。データの取れるものしか挙げられないので、データが取れないものとか、事業の成果がわかりにくいものは、もっと実際にやっている作業は多くて、地域コミュニティでも幾つもあるんですね。だから、これは参考として御覧になりながら、こういう項目があるのかという小項目を御覧になりながら考えてみてください。例えば、コミュニティ意識の醸成というのがあったら、そこに意見を言いたいという場合、出してください。よろしいでしょうか。

順番を間違えましたが、皆さんにお時間を差し上げて、お書きいただいてよろしいでしょうか。

感想でも結構です。皆さんが今の説明を聞いて、いや、これでいいやと思っても、もちろんそれで結構ですので、キーワードでお書きください。よろしいでしょうか。

よろしくをお願いします。

○加藤委員 すみません。見方について、ちょっと教えていただきたいんです。地域コミュニティの項目で、新しく8個事業をやっていますと書いてあるんですけども、その8個はどれに当たって、これとどういう関係があったりするんですか。

○平田部会長 業績シートと8個を合わせるんですけども、業績、去年度の8項目がどれかわからない。

○加藤委員 実施項目の8の内容と、この8項目がわからない。あらかじめどうなっているのか。そこに。あと、指標のその2です。

○平田部会長 事業数8なんですけれども、もっと多いんじゃないですか。ちょっと今説明しますね。

再掲だから、再掲じゃないものを数えていけばいいんですかね。この表の中で、再掲と書いてあるのを除いた数が、8個あるんですね。再掲というのは、ほかの分野にも出てくるので、それを除いた、何もここに印がないものを数えていくと8事業になります。

○林区民部長 再掲を除くと9事業ありますので、この26年度と27年度の9と数字が一致しております。年度によって、実施される事業と実施されない事業がございますので、28年度については8事業を行っているという御覧いただければと思います。

○加藤委員 わかりました。ありがとうございます。

○平田部会長 大きい字でお願いします。

(意見抽出)

○平田部会長 まだ書いていらっしゃる方もいらっしゃるので、意見のある方から順番に伺っていきますけれども、来てくださったので1番にお願いしたいと思います。じゃあ、お願いします。御説明を。

○山口委員 よろしいでしょうか。

○平田部会長 はい、お願いします。お書きになっていても結構です。

○山口委員 ちょっとこんな意見でいいのか、私はわからないんですけども、とりあえず今日気が付いたことを。町会の加入の推進を誰がやるのかというのは、すごく大変な大切なことですね。

町会の役員は、すごく今高齢化していて、動くのがすごく大変なんです。ですから、やっぱり区とかというところで、ある程度援助してくれないと、加入促進はなかなか進まないんじゃないかなと思います。町会の役員に任せっぱなしというと、なかなかうまくいかないのかなという気がします。それが、第一点。こんなことでいいですか。

○平田部会長 はい、そうです。

○山口委員 そうですか。

○平田部会長 はい、どうぞ。

○山口委員 それから、町会加入率ですが、マンションの管理人は、結構大切なんですよね。マンションの管理人で結構一生懸命やってくれる人がいる。そういう人に働き掛けると、そのマンションに住んでいる住人が、結構町会に加入してくれたり、いろんな助けになる。ですから、管理人というのがすごく大切だということが、日頃思っていることです。

それから、地域活動センターですけども、人数が増えるのはいいんですが、何をやっているかというのを、しっかりと皆さんにアピールして、こういうことをやっているんですよというのがわからないと、なかなかすぐには参加人数が増えないんじゃないかなという気がします。

まあ、こんなことをちょっと今ぱっと思い付いたわけです。

○平田部会長 ありがとうございます。また出たら足してください。

じゃあ、こちら、出井さん、よろしくお願いします。

○出井委員 地域で祭りをやると、町会費を払ってなくてもみんな来ちゃうんです。だから、そういう面では、その下の付箋の子どもの参加というのと、やっぱりそういうのを極端に言うと、地図にして、どこでお祭り、こういうのをやっているのかということで、やっぱりそういうふうに参加することによって、少しコミュニティができるんじゃないかなと思います。

それから、町会の数とかそういうのを意外に知らない。そういうのを地図化して、逆にこういうところにあるんだって、参加してもオーケーよというようなことをしてもいいんじゃないかと

思います。

それから、NPOが10個あるというんですけれども、何をやっているのかわからない。名前を知らないというようなのと、やっぱり何をしているかという広報をしていくことによって、じゃあそれに参加しようとか、新しいものをつくるということ。NPOであれば、あとは女性にうんと参加してもらおう。ただ、子どもがいる人は難しいかなと思うんです。

以上でございます。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

ほかにでき上がった方、いらっしゃいますでしょうか。お願いします。

はい、青木さん。縦の方。

○青木委員 縦に書いてすみません。やはり、町会・自治活動の支援強化と言っているんで、私ども、今、協会の中でいろいろ役員の後任でもめた件がありまして、一番感じたのが、サポート体制というかツールですよ。町会同士のツール。そういうのができたら、共通的とか、例えば、決算書とか、会報とかあるんですけれども、その共有化とか、そういうのをさせていただくと、町会の役員の方が結構負担になっているような感じがすごくしたので、そういうのを是非お願いしたいなと思います。

もう一つは、指標というのはわからなかったから、ちょっと加入率の、一緒のことを書いたんです。やっぱり指標というのは、前年より増やさなくちゃいけないのかなと思います。ちょっと、何ていうのがよくわからなかったんですが、それをちょっと意識して。

○平田部会長 ありがとうございます。ベストな、ベストかもしれない。

じゃあ、次の方どうぞ。

○村岡委員 すみません。今のお話の中にもあったんですけれども、まず、コミュニティ参画意識の向上というか、ちょっと私が、自分があまり把握していないんですが、実際に入りたいなと思えるような、先ほどの広告というのがありましたけれども、そういった広告をわかりやすく区民に提供するような形で、あったらいいのかなということです。

三つ目に、区民だよりをわかりやすくみたいなのがあるんですが、高齢化とかが進んでいくと、私でもちょっと区報ぶんきょうとか見ていて、実際に何をしているかというのが、細かく見ないと、自分のコミュニティで何をやっているのかというのがわからないので、そういうのを見やすくしたらいいと思います。

あとは、実際67%とかありましたけれども、結構入っているんだなとちょっと思ったんです。実際、自分が加入しているかといったところもあんまり把握できてなくて、町会費とか取られていたら、まあ入っているんだなぐらいなのです。そういった自分の状況とかを把握できたらいいなと思いました。

○平田部会長 ありがとうございます。

続いて、いかがでしょうか。お願いします。

○岡田委員 コミュニティの活性化というのは、ここにも書かれている、近所とのコミュニティの希薄化とか、今、保育園を建てるに当たって、公園で建てるとうるさいとかというような、そういう何ていうのかな、昔ではちょっと考えられなかったような意見が出て、今、いろいろ問題になっています。もう少し区民との交流ができてくれば、そういうのも解消されていくのではないかなというので、活性化ということです。

○平田部会長 ほか、いかがでしょう。お願いします。

○野口委員 まず、町会加入率というところについては、もちろん加入率も大事だと思うんですけども、まさにさっき言ったマンションのように、何か町会費は取られている、でも実際参加していないという人は、これはただ単に、見かけ上はよくなったが、実態としては、何ら地域コミュニティは活性化されていないという状態だと思います。むしろちゃんと町会として活動しているのか、そして、活動に参加している人がどれだけいるのかというところも、きちんと見ていくべきじゃないかなというふうに思いました。

それと、同じようなものなんですけれども、新たな公共の担い手と区との協働の推進ということについても、実際どれだけの人が、新たな公共の担い手、NPO法人とかがやられている活動に参加しているのかというところですかね。これもやはりきちっと見ていかないと、箱はつくりました、後は何か使っている団体が一杯あります、どう使われているのかよくわかりませんということになってしまうのかなというところで、要は結局のところ、使っている人だったり、町会に参加している人の満足度がどうなのかというところが、一番重要であるとして見ていくべきなんじゃないかなと思いました。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ、石井さんから。

○石井委員 はい。加入率の目標がプラス2%ということかと思えますけれども、どういう根拠でそういうふうな目標を立てられたのかなと感じます。具体的に、どういうふう to 実現しようとして立てた目標かなと思ったのと、あと、ずっと今意見に出ている「コミュニティの見える化」をする。例えば、アプリとか何かあることによって、若い人たちの参加率が、スマートフォンが今中心の若い世代ですので。今、防災アプリはあるかと思うんですが、そういうのがないんじゃないかなと思うんです。紙ではない何か媒体で、どうなんだろうということです。

○平田部会長 次、いかがですか。もうお一方。

はい、飯沼さん。

○飯沼委員 一つは、交通指導員の指名と書いているんです。小学校の前に、お年寄りの方がベストを着て交通整理されている方を見ますと、思わず、おはようございますとか、ありがとうございます言葉を掛けたくなるんで。ああいうベストを着て、高齢の方がいきいき生きられるような施策はいいんじゃないかなと思いました。

それから、その下二つの付箋、マンション組合の町内会への加入促進ということで、そのパーセンテージはよくわかりませんが、マンション自体で加入されているか、されていないのかと、大きなところで。

○平田部会長 ちょっとおまとめいただけますか、短目に。

○飯沼委員 あるかと思えますので、そういうところには目安箱を設置して、道路の危険なところとか自転車で危ないところとか、あとどこどこに空き家があるよとか、そういうのをくっ付けたりして、管理組合参加の人の町会加入を促進する。そこは一緒にくっ付いていると考えてください。

○平田部会長 はい、わかりました。

ほかにいかがでしょう。はい、お願いします。

○富永委員 年代別に見ると、ほかにもいろいろご意見があるようですけれども、小さいお子さんたちももっと加わってとか、お年寄りの方たちも一緒に加わるような、そういうシステムがあればいいと思いました。それから、各地域で、いろんなボランティアの方が活躍していらっしゃるの、そういう方々の交流の仕組みみたいなものも是非何か考えて、よりよい効果上がるようにしていただきたいと思います。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○村田委員 やはり、マンションに住んでいます人たちの町内会と関わりを持つきっかけをみんな、何ていうのか、探してはいるんですが、なかなかそれがきっかけをつかむことができないと感じています。まして、区立小学校・中学校にお子さんが通っているご家庭ならば、まだそういう方面からのお声掛けもあるんですが、それをもう卒業してしまったご家庭には、本当にそういう地元の方たちと触れ合うチャンスというのをもう少し頻繁にいただけたらなと思います。決してそれができないと思っているわけじゃないんですが、もう少しチャンスをいただけたらいいなと思います。

○平田部会長 機会のでしょうか。

○村田委員 はい。

○平田部会長 はい、次の方。

○加藤委員 まず、この地域コミュニティに限らずなんですけれども、指標のところ、区民の声を直接聞いて、例えば、アンケートみたいなを出して、活性化していると思いますかみたいなので、それに対する評価を入れてもいいんじゃないのかなと思ったのが一つです。

あとは、「地域コミュニティの活性化」イコール「町会加入率」というふうに見ているんですが、「地域活性化」イコール「町会に入ること」だけではない。NPOもありますけれども、それ以外の活動もあるんじゃないのかなと思っています。

私は、子育てひろばにママ友ができて、それでライダーのいろいろなやり取りをしたりとい

うことで、それも地域コミュニティの一つの形なのかなと思ったので、ほかの何か指標もあっていいんじゃないかなと思いました。あとは、今入っているNPOとか町会以外の人たち、町会に入っていない人から見て、町会が活性化しているのかどうかとか、区として活性化しているかみたいな意見があってもいいのかなと思いました。

○平田部会長 はい、ありがとうございました。

まだ、意見をおっしゃっていない方。大体出尽くしましたでしょうか。

牛嶋さん、今から書きますか。じゃあ、ちょっとお待ちしています。

ほかにいかがですか。あと足したいとか。意見交換も始めますので。

いろいろ意見が出てきましたよね。すごくいい意見ばかりなんですけれども。

じゃあ、牛嶋さん、おっしゃいますか。

○牛嶋委員 まず、コミュニティの中に、いろんなサークル活動というのがあると思うので、そういうものを取りあえず把握していつてはいかがかなと思います。

○平田部会長 地域コミュニティを測るいろいろな指標が出てきているんですけれども、そのサークル活動も測ってはどうかということでしょうか。

○牛嶋委員 ええ。

○平田部会長 ほかにいかがでしょうか。

新しい考え方がいろいろ出ていますね。町会加入率だけでなく、ボランティアの参加状況とかサークル活動とか、それから町会に入っていない人たちのコミュニティの活性化を図る話が出てきたように思います。地域コミュニティそのものの活性化の意見もたくさん出していただきました。アプリですね、アプリはおもしろいと思います。コミュニティの活性化を見える化することが大事というご意見が出たんですけれども、ほかいかがでしょうか。

この情報提供、コミュニティ参画意識の向上は、具体的にどうしたらいいですかね。この、さっきご意見をいただいたんですが、どうしたらいいと思いますか。

○村岡委員 そうですね。自分は、意識の向上は難しいと思うんですけれども。意識の向上というか、魅力のあるまちだなというふうに思えば、自ずと意識も上がってくるということはあると思います。やっぱりそのためには、知らないといったところが大きいのかなといったことがあるので、まずは知るところからかなということですね。

○平田部会長 魅力は、既に発信されているようにも思うのですが、切り口を変えたほうがいいということですかね。

○村岡委員 そうですね。魅力の発信の手段を変えるとか、年齢別にあった手段を採るとか。

○平田部会長 年齢別。

○村岡委員 はい。といったような、先ほどのアプリとかもそうです。

○平田部会長 そうですね。すごくいい意見が出ていますね。

模範になるようなワークショップをありがとうございます。すごくいろいろ出てきますね。

ほかにいかがでしょう。挙げるだけ、たくさん挙げたほうがいいので。ほかにこんなものもあるよというのがありますか。

グループとしては、活性化そのものに対するご意見。それから、やっぱり区のサポートとか共有化する仕組みをもっと考えてほしい。それから、情報も提供してほしい。それから、自分の理解を高めるために、どうしたらいいかというのがありました。あと、すごく正しく理解していらっしゃるんですけども、指標に対するご意見も出ました。指標をもうちょっと捉え直してほしいということ。また、広く、町会にこだわらず、もっといろんなのがあるんじゃないかというご意見が出たように思うんですが、どうでしょうか。ほかによろしいでしょうか。

何か模範系ですね。すごいな。ちょっと整頓し切れないぐらいいろいろあるんですけども。

あと、マンションと戸建てという住宅の区分もあるんじゃないですか。満足度を書いてくださった方、満足度をどうやって上げたらいいか、何かご意見ありますか。

○加藤委員 さっきのコミュニティ参画意識の向上のところと関係するかもしれないんですけども、そもそも地域コミュニティに入りたいと思っているか、思っていないかで、何か、まず入口が違うんじゃないのかなと思います。会社と家の往復だけだったら、別に地域コミュニティに入ろうとも考えていなくて、例えば、出産とか何か別のことがあって、初めて地域の人と関わりたいみたいなことです。

○平田部会長 ああ、なるほど。

○加藤委員 入口として。

○平田部会長 地域との関わり度合いをいろいろ調査して、見える化しておくといいわけですよ。

○加藤委員 それによって、満足度も違うのかなと思います。

○平田部会長 そうですね。それは確かに区分して測るとわかりやすいですね。今、そういう区分をしているんですかね。次回、関係部署からもお答えをいただきたいと思うんですけども、もうやっているよ、もう既にこういうやり方でやっていますよというのは、是非次回お答えいただきたいと思うんです。こんなやり方をとっています、例えば、こういう今出た意見に対してやっていますよということは、是非お答えいただきたいと思うんですが、皆さん、何か宿題あげなくていいですか。区民部長にもっと宿題を出したくありませんか。

大体大丈夫ですかね。大体皆さんよろしいでしょうか。

こちら辺りでしょうか。ここに対して、今、直接加入率を上げる活動のサポートが必要だというのがありましたけれども、サポートのところに関して、こんなふうにするといいんじゃないかみたいなご意見はありますか。

交通指導員の話もすごく新しかったです。年代別というキーワードも出ました。マンションと戸建てで区別して戦略を立てたほうがいい。それからいろんなきっかけを新たに増やしたほうがいいというご意見のように伺ったんです。目安箱の設置ですが、これはどんな感じでしょうか。

目安箱をどこに。

○飯沼委員 イメージ的には、マンションの方の加入率が悪いとか、参加意識を持つのであれば、マンションで加入されているところに、そういう設置箱みたいのを設置して、自分は何か、ただ加入費だけ取られているんじゃないじゃなくて、意見も言えるような形にしておけば、少しは参加意識が出るんじゃないかなとかです。

○平田部会長 みんなの意見をもっと吸い上げたほうがいいということですか。はい、ありがとうございます。

○飯沼委員 同じです。

○平田部会長 どうぞ。同じですか。指標ですよ。

○牛嶋委員 町会に関しても、数だけじゃなくて、やっぱり中身の議論もして行って、もちろん町会によっていろいろあるかと思えますけれども、やっぱり全体的に改善できるようなところが出てくると、全体的に満足度が上げられるんじゃないかというふうに思います。

○平田部会長 はい、町会活動そのものですね。

はい。

○出井委員 あと、マンションに掲示したらいいんじゃないですかね。うちはどこも町会に入っていますとかね。

○平田部会長 そうですね。

○出井委員 結局、マンション自体で払っているんですよ、町会費は。個々で払っているわけじゃないんで、知らない人のほうが多いと思うんです。決算書を見て、ここに書いてある、そこまで見ないと思うんで。

○平田部会長 そうですね。

○出井委員 やっぱり、うちのマンションはどこも町会に参加しています、町会費を払っていますというような、一つ一つそういう掲示をすることによって、少しは意識の向上ができるのかなと思います。

○平田部会長 そうですね。おもしろい。

○出井委員 それともう一つ、貸している人もいると思うんですよ、マンションを。それに全く無関係というんで、コミュニティに参加したくないと、元々というのですねあります。

ある程度、年代別というので、若い人に対する宣伝と、お年寄りに対する宣伝というのが、ある程度違うほうがいいのかなと思います。

○平田部会長 そうですね。ありがとうございます。

もっとお聞きしたいんですが、時間が来ちゃいましたので、終了だと監督が言っていますので、次のテーマに移らせていただきます。ありがとうございます。

これは、もう模範的なやり方です。このやり方をもうあと二つお願いします。

じゃあ、テーマ変えてよろしいでしょうか。はい。

次が、産業振興になりますので、関係部署の部長のほうからご説明をお願いいたします。

○林区民部長 それでは、資料をおめくりいただいて、32ページのところに、産業振興がございます。先ほどと同様に、現状と今後3か年の方向性について、初めにご説明をいたします。

国が実施しております経済センサスという調査がございます、その調査によりますと、区内の事業所の従業者の数、事業所の数、こちらは共に増加してございます。

商店街につきましては、消費者ニーズの多様化、インターネット通販の普及、複合店舗との競合、あるいは後継者問題など、様々な理由によりまして、厳しい状況が続いております。商店会加入者も減少の傾向にあることから、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を見据えまして、外国人への対応力の強化、これが求められております。

また、消費者被害の未然防止のため、各年代に適しました体系的な消費者教育の実施が求められております。

そこで、今後の方向性といたしましては、企業間交流、販路拡大、経営課題の解決等につながりを持たせ、産業の振興を図るとともに、地域の支援機関等と連携をいたしまして、起業を希望する方の支援をし、区内での創業を促進してまいります。

また、販売促進事業や環境整備事業補助等を活用しまして、商店街を活性化するとともに、商店の商店会への加入を促進してまいります。

さらに、消費者トラブルを防止するための様々なテーマの研修会を各年代の特性に配慮しながら実施をいたしまして、消費者の自立を支援してまいりたいと考えてございます。

次の33ページになりますけれども、今後3年間の方向性の実現度を測るための指標でございます。

初めに、1点目といたしまして、中小企業の経営基盤の強化につきましては、指標を「異業種交流事業に参加した区内の企業数」としてございます。この理由ですけれども、異業種交流事業に参加することで、企業間の交流、販路拡大、経営課題の解決等につながり、中小企業の経営基盤が強化されることから、異業種交流事業に参加した中小企業の数を指標としてございます。

また、目標につきましては、まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要業績評価指標として、ビジネス交流フェスタ、5区合同ビジネスネット、ビジネス交流フォーラム、中小企業小規模事業者向けの支援制度説明会などに参加しました区内企業数としてございます。

次に、2点目の創業支援の充実では、創業支援セミナーの受講者の満足度を指標といたしました。民間活力を高めるためには、地域の開業率を引き上げ、雇用を生み出し、産業の新陳代謝を進める必要があることから、本区では、創業支援セミナー等の創業支援事業を実施しております。このセミナーの受講者に対するアンケートにおけます5段階の選択肢のうち、「大変満足」、「満足」、この二つの評価をした方の割合が9割以上になることを目指していきたいというふうに考えてございます。

3点目、一枚おめくりいただきまして、商店街の活性化でございます。こちらの指標につきま

しては、「商店会加入件数」としております。設定の理由でございますが、商店街は、地域の方々にとりまして、身近な商品やサービスを提供するだけではなく、まちのにぎわいを創り出すために欠かせない存在であることから、区内商店会加入店舗の数を指標といたします。過去の実績を踏まえまして、商店主の高齢化に伴い廃業する場合等も考慮し、現状維持を目指してまいります。

次に、4番目の消費者の自立支援でございますが、こちらの指標につきましては、「消費生活センターの研修受講者の満足度」といたしました。よりよい消費生活を送るためには、消費者被害の未然防止や消費者の自立支援について、様々な手法によります啓発や情報提供が必要であります。そこで、あらゆる世代に応じた適切なテーマを選定いたしまして、各種研修を開催しております。

2点目にありました創業支援セミナーと同様に、各種研修の受講者アンケートにおけます「大変満足」、「満足」と評価した方の割合が9割以上、この9割というのを目指してまいりたいというふうに考えているものでございます。

説明は、以上でございます。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。わかりやすいご説明でした。

皆さん、よろしいでしょうか。ご質問がなければ、シンキングタイムということでお願いします。じゃあ、5分お待ちします。

(意見抽出)

○平田部会長 まだ書いていらっしゃる方もいるんですけども、ゆっくり書いていただいているので、もう既に出ている方にちょっとお聞きしてみまじょうか。まず、先着順でいかせていただきます。

加藤さん、山口さんの順でいきますが、加藤さんお願いします。

○加藤委員 指標に関しては、産業振興で産業や商店街のことなので、企業の税収、文京区にある企業の税収がアップした、下がったみたいなものも入れていいんじゃないのかなとちょっと思いました。

あと、研修に関しては、研修満足度そのものよりも、その研修に意義があるかどうかみたいな、研修に行っている人も、行っていない人も、に対してのアンケートをしてみても、そういった指標があってもいいのかなと思いました。

あとは、事業が15個あるというふうに書いてあったので、きっと予算配分をいろいろされていると思うんですけども、それぞれの成果がどれくらい出ているのかみたいなものも、ちょっと見たいなと、知りたいなと思いました。

○平田部会長 そうすると、上の一つの付箋は、新しい指標の提案だと思うんです。ここは、何か実際の実績を評価するときには聞きたいという感じでよろしいですかね。

○加藤委員 はい。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。こちらは。

○加藤委員 はい。方向性に関しては、商店街の活性化として、ネットと対峙（たいじ）するのではなく、商店街自体をネット対応してみてもいいんじゃないのかなと。オムニチャネル、ちょっと古いはやりですけれども、そういうのもやってみてもいいんじゃないのかなと思いました。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

続いて、山口さん、いかがでしょうか。

○山口委員 はい。先ほどの地域コミュニティのところと比較すると、このところは何か具体的な数値というのが、すごく少ないんですよ。なぜ具体的数値がないのと右のほうに書いたんですけれども、例えば、町会だったら、68%の加入率を目指しましょう、それから毎年度2,500人増加を目指しましょうという、そういう具体的な数値が出ているのに、何でここはあんまりそういうのが出ていないのかなという、これは疑問なんです。できればそういう数値を具体的に、目標値があったほうがいいのかというふうに考えました。

それからもう一つは、創業支援の充実ですが、創業支援セミナー受講者が満足するよりも、実際どのくらい結び付いたのということが大切かなというふうな気がしました。消費生活センターの研修受講者なんかは受講者満足度でいいんだけど、実際に創業といたら、やっぱり結び付かないと意味がないのかなという気がしました。

○平田部会長 これが何か指標になると、更によしという感じですか。

○山口委員 そうですね、はい。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

じゃあ、出井さん、お願いします。

○出井委員 はい。商店街の活性化ということで、何とか市（いち）ってありますよね。

○平田部会長 市。

○出井委員 ええ。そういうものをやっぱりその各商店会が、うちの決め手はこういうもんだというようなものを、ある程度アピールしたのをつくれればいいんじゃないかなと思います。この前もそうだったんですけれども、たまたま大塚駅のところに行ったら、金曜日は100円市という、何でも100円なんです。例えば、もやし4個が100円とかレタスが100円とかというふうに、そういうふうに毎週金曜日かな、そういうことがあります。そういう一つの習慣的なものにと売ると、商店街も活性化するんじゃないかと思います。

それから、次の案はちょっとわからないんですが、文京区がどういう企業がほしいのかななんて思っちゃったんですね。

○平田部会長 ああ、なるほど。

○出井委員 だから、結局、いろいろあると思うんですけれども、うちはこういうところに来てほしいんだと。例えば、本郷であれば、医療器具とかありますが、一番コミュニティが参加しているところは、東京ドームだと思うんですよ。でも、意外にどういう企業が来てほしいのか、

誘致したい、そういうのをここだったらこういうことができますとかいうことをもうちょっと区のほうがアピールしてもいいんじゃないかなと思います。産業誘致みたいなね。

○平田部会長 これは、区民のことでよろしいですかね。文京区、区役所が望むというよりは、区民が望むですかね。

○出井委員 区民が望むのかな。ちょっと両方ありますがね。

○平田部会長 両方あるんですよ。これはそうなんです。役所が決めるだけでもないですよ。区民もですよ。

○出井委員 うちの区には、こういうものがあるんだとかと自慢ができるとか。

○平田部会長 できる。ああ、なるほど。それは、区役所はご存じですよ。

じゃあ、牛嶋さん、いきましょう。

○牛嶋委員 まず一つは、4番目の消費者の自立支援というのは、何かここじゃないような気がするというのがあります。要するに、産業振興の目標としては、ちょっとどうなのかなというところが、正直なところです。

○平田部会長 なるほど。違う指標とか。

○牛嶋委員 まあ、これ自体はもちろん事業としてあっていいんですけども、産業振興じゃないような気がするというのがありますね。

あとは、企業の地域コミュニティ、さっきの地域コミュニティとも関係が深いところだと思うんですが、産業振興ということで、企業と地域が一緒になって何かやるというのがあっていいのかなと思います。まあ、それは非常に似ているので、どっちにもなるんです。そういったものがあると、実際、例えば、文化シャッターとか時々いろいろやっているかと思うんですけども、そういったものをもう少し取り上げたり、あるいは、区内の企業が、もっといろいろそういうことをやってくれるといいのではないのかなと思います。

○平田部会長 あと残り10分になりましたので、皆さん。

はい、お預かりします。

はい、どうぞ。

○石井委員 文京区のキャラクターがあると思うんですけども、文学とか文化・歴史ですとか、それと産業が結び付くと活性化するんだなということです。池袋は若者のまち、アニメというのと産業が、すごく結び付いているので、まちがすごく活性化しているのを感じるんですね。なので、ちょっとそんなことを考えました。

○平田部会長 はい、ありがとうございました。

はい、どうぞ。

○野口委員 まず、先ほどもどれだけ創業に結び付いたかというところがありましたけれども、当然、創業支援して事業を行っていますというようになれば、その支援事業の結果、どれだけ創業して、なおかつ現在も継続している会社。創業じゃなく、建てるよりも続けるほうが難しいも

のですから、どれだけ続いているのかというところは、やはり指標としてこれは必要なのではないかなというふうに思います。

それと、消費者の観点では、やはり最終的には消費者被害を減らすということが、一つ最大の目的にもなっているかと思うんですね。それこそ適正な事業者が、ちゃんと活躍できるし、住んでいる人も安心して買い物ができる。そうしたところが、やはり一番重要だと思います。指標として取り入れていただきたいなというところですね。

商店街の活性化というところでは、結局、文京区内に多く商店街がありますが、何か歩いて見ると、ほとんど、家、家、家、商店、家、家、家というところが、結構多いんですね。これで商店街と言われても、単発の商店があるだけみたいな雰囲気がちよっと実際あって、もうちよっと何か、商店街らしいところを文京区が力を入れて、ここはもう、周りは全て商店じゃなきゃ駄目だということをつくるような方向をやっても、おもしろいんじゃないかなと思います。

○平田部会長 なるほど、新しいアイデアですね。

じゃあ、お願いします。

○村岡委員 文京区の特性を活かした産業支援と書いたんですけども、文京区の人口とか、実際の学生とか学校とかが多いと思うんで、そういった人をターゲットにした産業支援に力を入れてもいいのかなと思いました。

あと、ちょっとアイデアベースなんですけど、ちょっとわかっていないんですけども、文京区とほかの自治体とかで、そういった連携というか姉妹都市みたいな関係とかがあれば、何か目黒でさんま祭りやっているみたいな、ああいう何か特別な祭りのイベントを何かすることで、どんどん活性化するのかなと思いました。

あとは、評価のところは、ちょっと話に出てきていたところなんですけど、商店の知名度とか、先ほどお話がありましたけれども、やっぱり継続していくことが大事だと思います。実際、潰れて、また加入してといたら、結局加入件数は変わらないと思うんで、そうすると、継続していることが大事ということです。

○平田部会長 そうですね。継続を指標化するというのは新しいですね。

○村岡委員 そうですね。そうすると、まず商店の知名度とか認知度とか、「食ベログ」で人気のある店がどれくらいあるとか、そんなようなこともいいのかなと、指標になるかなと思いました。

はい、以上です。

○平田部会長 はい、よろしいでしょうか。

次は、青木さんですね。お願いします。

○青木委員 産学連携と書いたんですけども、文京区は大学の数が千代田区に次いで多い区なんですよね。だからやっぱり、すごくたくさん、学生さんも住んでいるんで、それをうまく活用したほうが、ここに書いてあるんですけど、それを是非やったほうがいいのかなと。もっとPRし

たほうがいいのかと思います。できたらね。

それから、二つ目の地域産業についても、やはり印刷とそれから医療機械というのはやっぱり、確か東京都で大田区に次いで2番目とか何かいうぐらいで、何にもあんまり、昔から住んでいる人はよく知っているんですけども、後から来た人には、全然わからないと思うんですね。工場が文京区に多いのかなと。

○平田部会長 もっとアピールですか。

○青木委員 うん。そういうのをもう少しアピールしたり、それから文京区の知名度の発信にもなるから。発信することによって。

○平田部会長 そうです。

○青木委員 結果的に、商店とか何かがにぎわうんじゃないかなということです。

○平田部会長 データを提供するといいですね。創業何年のお店が多いとか。

はい、それからいかがでしょうか。

じゃあ、飯沼委員。

○飯沼委員 もう既に皆さん言われていることのおさらいみたいになってしまいますけれども、強い産業の情報発信ということで、文京区で今強いものがあれば、それをきちっとやって、そういう産業に特化していくようなことは、戦略的に必要なんじゃないかなと思います。その付箋に、医療機器、印刷、クエスチョンと書いてありますが、それ以外でも、また知らないものがあれば、そういうことだろうと思います。

それから、あと同業種の集まっている地域の見える化というか、まあ、上のことのあれなんですけれども、なぞっている。医療機器だと本郷の辺りだったり、印刷だったら小石川の辺りだったりとか、何か地域的にいろいろ得意な分野があると思うので、そういうのをやったらいかがかなと思います。

あとは、商店街か、若しくは有名店連合と書いたんです。

○平田部会長 有名店ですね。

○飯沼委員 先ほどもお話が出ていましたけれども、商店街といっても、本当に住宅地にもうなっちゃっているところがあります。ただ、この間、文京区のチラシを見ていたら、そば屋さんのこういうところをぐるって周りましょうというのが入って来ていたので、まあ残る商店街を決めるのか、残っていく、自立で残っていくというか、それとは別の切り口で、その残っている商店を文京区の中なり、そば屋さんならそば屋さん、それから何かケーキ屋さんならケーキ屋さんでもいいんですが、そういうのまとめてつなげば、それはそれで残れるのかなと思います。

○平田部会長 ケーキ屋さんマップとかをデータを提供する。

○飯沼委員 まあそうです。そば屋さんマップとかそうです。

○平田部会長 なるほど。はい。

ほか、おっしゃっていない方は。

○富永委員 産業振興を考えていただくときに、特に文京区の場合は、東京の中でも、城北文化圏として昔の本郷区、小石川区が一緒になり、いろいろな名所、旧跡、有形文化財が多いわけですから、是非、これら文化の振興とあわせた振興策としていただけたらと思います。

あと、商店街は、スーパーとかコンビニの登場にうまく融合してやっていけたら非常によいのではと思いました。

○平田部会長 融合ですか。

○富永委員 はい。よいのではないかと思いますけど。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

じゃあ、岡田さん、お願いします。

○岡田委員 皆、同じなんですけど、本当に前、自分が住んでいたまちに、何とか銀座という名前まで付いているんですけども、今、本当にそれが全部なくなっちゃっていて、普通の家になって。ちょうど後継ぎがいなくなって、みんな閉じていっちゃうんですね。ですから、本当に今、自分たちの周りは何にもなくなっているんで、活性化をしていく、何かそういう指數的なものがどこかにあれば、その、そういうのを指數化したらどうなのかなと。

○平田部会長 これは、ちょっと指標に近いですかね。

○岡田委員 いいです。こっちでいいです。

○平田部会長 こっちでいいですか。

○岡田委員 ええ。

○平田部会長 ほか、おっしゃっていない、追加意見とか、ありますか。

すごい皆さん、時間もあと2分という理想的な終わり方で、ありがとうございます。

とてもいい意見出たんじゃないでしょうか。まだ出ていないデータを出していくと、いいものたくさんありました。有名店マップ、特性、それから同業種の集まりとか、それから強い産業の情報発信を、またさらに加速するようなご意見が出ましたね。それから継続しているお店を評価する。それから、具体的数値が見えない、こちらはちょっと違うんですけども、新しい指標のご意見も出ました。消費者自立支援は、別のところで評価したほうがいいんじゃないとか、新しい企業の税収とか消費者被害の発生数などが新しいご意見として出たと思います。

ありがとうございます。理想的な時間配分にご協力をいただいてありがとうございます。

じゃあ、次のテーマに移ってよろしいでしょうか。

次は、ちょっとたくさんあります。ご協力ください。生涯学習と文化振興とスポーツ振興、一気にいきますので、ご説明よろしく願いいたします。

○田中アカデミー推進部長 アカデミー推進部長の田中です。

それでは、3項目一括してのご説明ということで、ちょっと駆け足でさせていただきます。

35ページをご覧ください。3-3、生涯学習でございます。今後の3か年の政策の方向性につきましては、2に記載のとおりではありますけれども、私どもでは本年3月に新たなアカデミ

一推進計画というものを作りまして、28年度から32年度の5か年の計画、これに基づきまして、記載にあるような「区内まるごとキャンパスに」ということで、「～『文の京』、豊かな学びと交流を生み出すまち～」というように、事業を進めておりまして、生涯学習の場や機会の充実などに取り組んでいるところでございます。

また、下の「さらに」のところでございますが、図書館につきましては、ご案内のように、今月の10日に、真砂中央図書館がリニューアルオープンしたところでございまして、これまで以上に充実した図書館サービスの提供に努めていくということでございます。

おめくりいただきまして、36ページ、37ページです。こちらの代表する指標は、一応四つを設定させていただいております。

一つ目の指標は、「生涯学習講座の受講者数」ということでございまして、こちらは前計画では、ここに満足度を併せて一つの指標としてまいりました。しかしながら、この間、どの指標も80%を上回り、90%台があるという、高い評価を得ているという状態が確認できましたことから、本計画におきましては、区民の生涯学習活動への参加を更に促進をいたしまして、学習機会の拡充を図ってまいりたいということで、受講者数を単独で指標として出させていただきます。

二つ目の指標は、「人材育成講座修了」でございます。これは、前計画と同様でございます。指標を継続することによりまして、本区の生涯学習事業を様々な形で支える人材、これを引き続き育成してまいりたいということでございます。

三つ目の指標は、「区民プロデュース講座の講座実施数」ということで、新たな指標でございます。こちらは、区民プロデュース講座、これは区民に企画を立案していただく講座で、区民との協働によりまして、地域に根差した生涯学習の実現を目指していくということで、区民の学びの成果を活かす機会となることから、指標とさせていただきます。

四つ目の指標は、「図書館利用者の目的達成度」でございます。これは、前計画に引き続きの指標でございますが、今後とも図書館サービスの更なる向上に努めていくという形でございます。

次に、38ページを御覧ください。3-4、文化振興でございます。現状と今後3か年の方向性につきましては、2に記載しておりますが、今後とも、誰もが文北芸術に親しむことができる環境づくりや、文化芸術を鑑賞、創造する活動の支援を進めるとともに、本区の伝統的な文化を将来に向けて継承し、まちの魅力として活用するための取組を進めてまいりたいということでございます。

この方向性の指標は、四つを設定させていただいております。

一つ目、「文化・芸術事業等参加者延べ人数」、それから二つ目の「芸術鑑賞事業等への来場者延べ人数」でございます。この二つは、前計画に引き続いての指標です。これを継続することによりまして、今後とも区民が日頃の成果を発表できる機会を提供するとともに、シビックホールなどにおける芸術鑑賞事業や小・中学校で行うアウトリーチ事業、こちらを通じて、区民の皆

様が、身近に文化・芸術に触れる機会を提供してまいりたいということでございます。

40ページを御覧ください。3番目の指標です。こちらは、「ポスターコンクール応募者総数」ということで、新たに設定をしたいというものです。

ポスターコンクール事業でございますが、今年度の新規事業になります。書道展や絵画展といった秋の文化祭を初めとして、民謡大会とか合唱の集いなどの開催に当たりまして、その周知のためのポスターづくりについてアイデアを出していただいて、区民参画によって実施をしたいという内容でございます。文化芸術を身近に感じ、日本の伝統芸術に興味・関心を持ってもらいたいということで、その成果を図るために、これを指標とさせていただきます。

四つ目でございます。「森鷗外記念館の入館者満足度」でございます。こちらも、前計画同様引き続きの指標とさせていただきます。今後とも、本区ゆかりの代表的な文人である森鷗外等の継承、情報発信などに努めてまいりたいということでございます。

最後、三つ目になりますが、次のページ、41ページ、スポーツ振興でございます。今後3か年の政策の方向性につきましては、本計画では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、これを成功させると。ひいては、大会後のレガシーを見据えた取組を推進していくことが求められている状況の中で、区民がスポーツに親しむことはもとより、スポーツを通じて人と人とのつながり、そういったものを育て、地域コミュニティづくりやおもてなしの心の醸成といったものに、幅広く取り組んでまいりたいということでございます。

恐れ入ります。次のページ、42ページ、43ページを御覧ください。こちらの代表的な指標は、四つということで選ばせていただいております。

一つは、「スポーツ施設及びスポーツ交流ひろば年間利用者数」でございます。これは、前計画と同様の指標です。この指標を継続するということは、区民の皆さんが、身近でスポーツができて健康で豊かな生活が送れるように、スポーツ機会の拡大に努めていきたいという考えでございます。

二つ目の指標です。こちらは、「スポーツ関係団体等との協働事業の実施数」です。本区は、講道館、日本サッカー協会、日本バスケットボール協会を始め、スポーツ関連企業あるいは大学等、スポーツに関わりのある団体に恵まれているところでございます。今後とも、協働事業を進めることによりまして、東京2020大会に向けた気運醸成、これを機に「観るスポーツ」といったものも推進し、区民のスポーツへの関心を高めてまいりたいということでございます。そうしたことから、この指標を継続させていただいたところでございます。

最後、三つ目になります。「スポーツ指導者の地域派遣件数」。それから、四つ目の「スポーツ指導者の各種指導者講習会への受講者数」ということでございます。これらはいずれも、前計画と同様の指標になっておりますが、引き続き指標とすることによりまして、地域におけるスポーツ活動を引き続き支援をしてまいりたいということです。

駆け足になりましたけれども、説明は以上でございます。

○平田部会長 はい、ありがとうございました。

たくさんあるので、いろいろとばらけると思うんですけども、お願いしたいと思います。じゃあ、また5分間よろしくお願いします。

(意見抽出)

○平田部会長 そろそろ5分たちますので、まだ書いていらしていいんですけども、山口さんからご意見を伺ってよろしいですか。

はい、お願いします。こちらです。

○山口委員 最初は、文化・芸術とか芸術鑑賞事業ですけども、参加人数よりも、魅力あるそういう講座をどのぐらいやったかということ、それが一番大切だと思うんですけども、ですから、そういうのはやっぱり指標にならないかなというふうに思いました。

○平田部会長 難しいご注文ですね。

○山口委員 はい。

それから、鷗外記念館については、私は個人的に建設の計画のときから携わらせていただいて、今もボランティアで解説をやらせてもらっているんで、これは大変うれしいです。是非、これを入れていただきたいなと思います。

○平田部会長 はい、わかりました。

○山口委員 それからスポーツですけども、こういうスポーツ全体じゃなくて、身近に参加できる健康体操教室とかウオーキング教室とか、よく区でやっているんですけども、僕も参加したことあるんですが、そういうものへの参加とか、そういうのもスポーツ振興になるのかな、もしかしたら、健康のほうになるのかもしれないですけども、そういうのも指標に入れていただきたいなと思いました。

○平田部会長 これは、指標ですか。

○山口委員 はい、そういうのも。

○平田部会長 じゃあ、2番目が岡田さん、お願いします。

○岡田委員 文化、芸術、スポーツ、確かにたくさん区報に載っていて、ああ、と思うんですけども一歩踏み出せない。いろいろやっているなどは思うんですけども、なかなかそこに参加するまで、その一歩が出ない。そういう人たちが関心を持つような、今度は指標になりますが。

○平田部会長 参加しにくい人への働き掛けみたいなので、よろしいですか。

○山口委員 そうです。

○平田部会長 じゃあ、3番目は出井さん、お願いします。

○出井委員 東京大学も世界レベルからすると低くなっちゃったんですけども、東京大学の講座に参加できるとか、そういうこともおもしろいんじゃないかなと、いかがですか。

それから、図書館の時間延長は僕は知らないんですけど、千代田区は夜の10時までやっているそうなんです。

- 平田部会長 10時。
- 出井委員 図書館も。
- 平田部会長 延長ですね。
- 出井委員 それから、大学もこれだけ一杯あるんで、やっぱり大学の特徴を交流して紹介するとか。
- 平田部会長 誰と交流しますか。大学同士ですか。
- 出井委員 大学同士。
- 平田部会長 大学同士はやっています。
- 出井委員 やっていますか。それは知らないです。
- 平田部会長 足りないですか。はい。
- 出井委員 それから、スポーツを観るということで、ちょっと古いですけども、街頭テレビとか、みんなオーロラビジョンというのをね。
- 平田部会長 パブリックビューイングですよ。
- 出井委員 区にないんですね。ほかの池袋とかそういうところに行くと、ビルの画面にばばーんとかくっ付いていて、オリンピックやっているぞというような、そういうのを。
- 平田部会長 みんなで。
- 出井委員 せっかくやるのであれば、サッカー協会とは、あれはみんな裏ですから、表のところにつくって、そういうものを、プロ野球中継とかもそうですし、ちょっと街頭テレビと古いんですけどね。
- 牛嶋委員 ここの地下2階で時々やっているんです。
- 平田部会長 ああ、なるほどね。そういうのをもっと生かすといいですか。
- 出井委員 いや、あれは地下じゃないですか。外じゃないとだめなんですよ。
- 平田部会長 外ですか。わかりました。
- 出井委員 要するに、外じゃないと。新宿とか四ツ谷、渋谷というのは、みんな外にありますから。
- 平田部会長 はい、じゃあ、よろしいでしょうか。
- 4番目、牛嶋さん、お願いします。
- 牛嶋委員 このテーマに限らないと思うんですけども、結局、その事業をするのに、どれぐらいお金を掛けるかというところと、やっぱりそれも含めて議論しないと、要するに、何か施設を創るのに何十億掛けましたみたいな話があって、それは何か数値は上がるかもしれないですが、それだけお金を掛ける必要があるのというところを含めて議論すべきところなので。その辺も、もし、例えば、ここは力を入れるんで、ちょっと予算も掛けますみたいなのがあったら、一緒にお伝えいただけるといいかなと思います。これは、区の方をお願いなんですけれども。
- 平田部会長 そうですね。重要なご意見だと思います。はい、ありがとうございます。

では、5番目が青木さん、お願いします。

○青木委員 今五輪もあるんですけれども、野球とそれからサッカーのミュージアムがあるんですよね。孫に言われたんですが、何とか研究でサッカーの。

○平田部会長 ああ、自由研究ですかね。

○青木委員 ああ、自由研究か。そこに行きたいというくらい、逆に言うと、そんだけ結構二つもある有名なのがあるんですね。だから、スポーツ振興に役立てるんじゃないかと。もう少しPRしたほうがいいのかと思います。文京区のPRという意味でね。

それから、二つ目は、大学の連携というのは、これだけ大学の数があって、結構一生懸命やっているのはわかるんですけれども、もう少しこれもPRしたほうがいいんじゃないかと思います。どうもあるんです。

それから、三つ目の文京アカデミアというのは、私は結構選定委員とかやっているとありますが、やはりほかの区にない、特に区民プロデュースというものなんですけれども、非常におもしろいがあると思っています。あれももう少し、まあPRじゃないんですが、充実してもっと数も増やしたほうがいいんじゃないのかな。そうすると区民の参加意識もあるし、いいんじゃないかなと思いました。

○平田部会長 なるほど。ありがとうございます。

じゃあ、次は、加藤さんでよろしいですか。

○加藤委員 生涯学習と文化振興に関しては、単独でいろいろされている印象を受けたんですけど、ほかの施策と何か関連性を持たせると、もっと何かおもしろいことができるんじゃないか。

例えば、おもてなしの講座と英語の講座を受けている人が、商店街の食堂のメニューを英語化するみたいなことをすると、全部の施策にいい効果をもたらすんじゃないのかなというので、連携してみてもいいのかなと思います。

○平田部会長 ああ、関連させるんですね。なるほど。

○加藤委員 あとは、文化振興、スポーツ振興は、ちょっと平成28年度基本構想実施計画実現度評価表を見ていると、28年度の予算がすごい乗っかっていたので、予算が一杯ついているということは、一杯事業をするということなので、参加者が増えるのは当たり前なのかなとちょっと思ってしまいました。そうすると、満足度とか、ほかの質を見るような指標があってもいいのかなと思いました。

○平田部会長 ああ、なるほど。高度なご意見です。はい、ありがとうございます。これは。

○加藤委員 ごめんなさい。あと、芸術とスポーツの施設は、区民だけじゃなくて、区外からいらっしゃる方が多いと思うので、区民そのものが満足しているのかみたいな、ちょっと区民とそれ以外の人とを分けていただけると。

○平田部会長 区民ですね。

○加藤委員 指標として見てもいいんじゃないのかなと思いました。

○平田部会長 こちらは。

○加藤委員 文京区は、すごい文化のあるまち、歴史のあるまちと聞くんですけども、それが何かよくわからなくて、それが何かとか、数だったり年数だったりデータで示されると、わかりやすいなというのがあったので。

○平田部会長 データですね。

○加藤委員 これと関係するかわからないですけども。

○平田部会長 大きい宿題が来ましたね。

○加藤委員 はい。

○平田部会長 文化のまちをどういう指標でいきますかね。

○牛嶋委員 何かほかとの違い、周辺との違いとかわかるといいかなと。

○加藤委員 しっくりくるかなということですね。

○平田部会長 他区との違いですか。

○牛嶋委員 ええ。

○平田部会長 はい、ありがとうございます。

じゃあ、村田さん、お願いします。

○村田委員 実際に、生涯学習教室の講座を受けてみたりしますが、万年初心者なんですね。どの講座も何か、大体対象になる人が本当に、着付け教室で言いますと、もう着付け教室は浴衣までですねとか。忙しい中、時間を繰り合わせて、一生懸命興味を持ってそこに駆け付けても、私の感覚では、いつもどの講座も万年初心者みたいな気持ちになってしまうので、もう少しこう突っ込んで、せっかく文化の奥深い文京区なので、もう少しその指導をしてくださる方がポイントを突いて、ユニークな講座をもっとやっていくと。

○平田部会長 応用編ということですか。

○村田委員 はい。そうですね。もう少し専門的なことも教えていただけるような、興味をそえられる。興味がないことはないんですよ。もっとこう突っ込んだ講座も入れていただけたら、駆け付けるのにと思っています。

○平田部会長 長期化は。

○村田委員 そしてそれが、例えば、3か月とか長くて1年とかでなく、ずっとそういうことを育てていただきたいんですよね。もっと緩やかに勉強できるような。

○平田部会長 ああ。繰り返す。こう、何かサイクルを持ってやるという感じですね。

○村田委員 ええ。そうですね。

○平田部会長 わかりました。ありがとうございます。

野口さん、お願いします。

○野口委員 すみません。何かちょっと文化振興の分野の指標が全体的に、この指標なのというところがちょっと多過ぎて。本来だったら、代わりにこういう指標がいいんじゃないかと出すべ

きところなんです、ちょっと思い付かなかったので、あれなんですけれども。もう正に、多分（１）のだれもが文化芸術に親しむことができる環境づくりと聞いて、各種運営団体。参加者の高齢化・硬直化と言っていたら、全然「だれもが」になっていないですよというところだったり。あるいは、正に（２）の文化芸術を鑑賞し、創造する活動の支援となっているのに、見る人数だけでカウントしていたり。（４）番についても、文京区には森鷗外以外にも、いろいろ文化芸術のすぐれた方がいらっしゃいますよねというところだったりです。

○平田部会長 森鷗外縛りになっている。

○野口委員 はい。ちょっと、もう少しいろいろと適切な大きな数値があるのではないかなと思います。

○平田部会長 なるほど。データが取れるかというのも、難しい問題なんですよね。でも、すごい意見です。

はい、じゃあ、飯沼さん、お願いします。

○飯沼委員 このスポーツ振興のところでは、スポーツ関係団体の講演数というのを指標にして、その中に、文京区に本部を置いている、例えば、その講道館とかサッカー協会、バスケットボール協会に、文京区に本部を置いている意味とかそういうのを講演として出してもらって、より具体的なつながりというのを深めたらいいんじゃないかなと思います。

それと、次のものがくっ付いています。

あと、文化人の区への在籍数というか在住数というか、文化のまちと言いますが、昔いた方々、森鷗外にしろ、夏目漱石にしろ、ここが良かったからいたんだろうけれども、今言われるところの文化人ってどのくらい住んでいるのかわからないし、その数という感じで見ると一つの切り口かなと思って、指標です。

それから、19の大学があるということなんですけれども、教授、准教授に絞らせていただいて恐縮ですが、どのくらい文京区にいらっしゃるのかなと思います。要するに、魅力のあるというのをどこに定めるという意味で、いらっしゃるんだったら、どういう方々がいて、それは何でいるのかなと。そういう分析なんかしたらいいんじゃないかなと思って、指標として二つ入れました。

○平田部会長 ありがとうございます。

何か、文化人をどこから文化人と言うのか、区切りが難しいですけども。ですが、新しい考え方だなと思います。区だけでなく関連団体と合計して指標化していったりとか、それから、今までやっていなかった指標でも見てほしいということですよ。

なので、新しい、斬新なご意見だと思います。

じゃあ、富永さん、お願いします。

○富永委員 ふるさと歴史館というのがありますね。

○平田部会長 ふるさと歴史館。はい、あります。

○富永委員 あれをもう少し活用してはということです。

○平田部会長 活用ですか。

○富永委員 はい。今までいろいろなよい案が出ているのを、あれを中心に何か一つにまとめたら、おもしろいのではないかと思いました。

それともう一つは、東京ドームは、やっぱりすごいところだと思います。それこそ赤ちゃんからお年寄りまで皆さんが利用できる所です。いわゆる野球の端境期の1～3月の間に開かれるテーブルコーディネート展、蘭の展覧会、キルトの展覧会、これら三つの催事には多くの女性の方が、それこそ近県から観光バスで来られます。満員で入場料も二、三千円と結構高かったと思いますが、文京区にも相当貢献しているのでしょうか。よくわかりませんが、ともかくドームを何か利用しない手はないのではと思いました。

○平田部会長 なるほど。男女問わずですね。

○富永委員 ええ、是非。それに時々コンサートも。若者の音楽をやっていますから、はい。

○平田部会長 既存施設をもっと、多様な面で活用ですか。こっちでよろしいですか。各種サークルのほうになりますか。

○富永委員 それはまあ、いろんなサークルがあちこちにあるのですが、それをまとめたら、文京区のいろいろ老若男女を問わずのサークルになると思うので、何かまとめて企画したらと思いました。

○平田部会長 そうですね。いや、そうです。確かにサークルの交流も大事ですよ。今までつながっていなかったところをつなげるということなんですね。

じゃあ、村岡さん、よろしいでしょうか。

○村岡委員 忘れていたんですけども、大学との連携がやっぱり。たくさん大学があるというのはわかるんですが、地域とか絞られてくるのかなというところもあって、あまり、私が近くに大学が多分ないからかもしれないですけども、どういうことをしているのか伝わってこないなといったところなんです。

○平田部会長 そういったことがわからない。

○村岡委員 そういった活動があれば、ちょっと広域に広げて行っていただきたいなといった、ちょっと要望になるんですけども。

○平田部会長 広域というのは、文京区外。

○村岡委員 いや、文京区内です。

○平田部会長 内。わかりました。

○村岡委員 はい。内です。

あとは、ちょっと、これも何か苦情みたいになっちゃって申し訳ないです。

○平田部会長 苦情ですか。

○村岡委員 図書館の環境とか。まあ図書館とかは、いろいろ目的があって行くと思うんですけ

れども、単純にゆっくりしたいとかいう人もいると思うので、環境づくりが大事なのかなと思います。何か、実際、本郷図書館とかよく利用していたんですけれども、そちらはすごい居心地もよくてとかあって、ただ、ほかの図書館とちょっと何かまたレベルがちょっと違うなというのを少し感じたので、そういった底上げしていくような施策とかあったらいいのかなというように思いました。

あと、実際、「文の京」と言うぐらいなので、人気のある本の在庫を増やしていただいたらと思います。待ち人数500人とか1,000人とかになったら、多分、あまり借りる人がいなくなるかなとか思ったので。

以上です。

○平田部会長 はい、ほかは追加で石井さん、どうでしょうか。

○石井委員 住みたいまちになることが、やっぱり文京の目指すところだと思うので、そこが文化振興とかスポーツと何か具体的な指標と結び付くといいのかなというふうに思ったんですけれども。

○平田部会長 そうですね。単独の指標では評価されているんですけれども、皆さんが、いろいろつないでみるとおもしろく見えますよということをご提案くださっているんですね。それは本当にそのとおりだと思います。

ほか、何か新しく思い付いた意見とかありますでしょうか。

素晴らしいですね。ここは、指標と方向性がちょっと一緒になっていますけれども、まあ、それはそれでいいのかなと思います。やっぱり、新たな大学同士の交流をもっと広報したり、それから、新しくつなぐリンク先というんですかね、つながり先をもっと既存のものに捉われずに、単独ではなくてつないでいくとか、交流とか、そういうものを活用したらどうでしょうかというご意見が、たくさん出たように思います。

持っている資源の活用、こういうのはとてもいいと思います。住みたいまちの理由と色々なものがつながると、もっとみんな住みたくもなるし、それからお互い活性化しますよね。よろしいでしょうか。大体そんなものでしょうか。

はい、どうぞ。

○山口委員 野口さんがさっきおっしゃったのは、すごく賛成なんです。指標とこの表題が、ちょっと違和感があるところが、ちょっと気になります。はい。

○平田部会長 そうですね。

○山口委員 うん。ちょっと野口さんから貴重なご提言だなと思ったんですけども。

○平田部会長 どなたか何かお答え返されますか。

おっしゃいますか。

○竹越アカデミー推進課長 確かに、指標と文化芸術、生涯学習は、範囲が広いものですから、それを指標にすること自体が、確かに無理がある。その中で、データとして数字を取って、これ

ですと言いつ切るには、多少無理は出てくるかなとは思っています。

ただ、数字もその時々で変わってしまうような数字は出せないの、できるだけ3年間なり、一定の数字を確保できるものを取ってくるとなると、ご意見を多々いただいたように、内容と無理があるんじゃないのという部分は、否めない部分があるかなと思っています。

○平田部会長 ありがとうございます。

大体、皆様、この分野、これ結構たくさんあるんですけども、生涯学習、文化振興、スポーツ振興に、大体満遍なくご意見いただいたと思うんですが、大体よろしいですかね。

○出井委員 ポスターの意見がなかったですね。

○平田部会長 はい。

○出井委員 ポスターの意見がなかった。

○平田部会長 ポスターの意見。

○出井委員 ポスターコンクールです。

○平田部会長 コンクール。ああ、ポスターコンクールですね。

私は、ポスターコンクールがよくわかっていないんですけども、何か有名なんですかね。

○出井委員 意外に、このポスターコンクールでそれを、さっきのコミュニティとかああいうのに当てはめてするというのも、おもしろいんじゃないかなと思います。

○平田部会長 そうですね。

○出井委員 それを貼れば、うちの町会はここですよとか。何か、今へたな絵がいらしいですね。あんまりうまい絵より。

○平田部会長 ポスターコンクールとほかの部門のリンクですね。

○出井委員 ええ。

○平田部会長 何か皆さん、ご意見、本当にありがとうございました。すごいもう理想的な時間配分でいっております。

すごくいろいろ意見が出まして、新しい意見をありがとうございました。

区の皆さんから何か補足で説明したいとかおありですか。

やっぱり、なかなか理想と現実のデータが合わないところがあります。どうしても、データが客観的に見えるもの、パーセントとか何か数字で表せない指標化できないというところも、どうしても現実と理想の間に、ちょっと離れてしまうところがあるのは、ご理解いただきたいと思うんですけども。すごく新鮮なご意見をいただいたと思います。

よろしいでしょうか。次回、ここは答えたいというところは、是非担当の部からお願いいたします。

じゃあ、私のほうから、これで三つ終わりましたので、皆さん、ご協力ありがとうございました。1回目からもう素晴らしかったです。私が点数を付けさせていただくと、かなり、98点ぐらいですかね、いっています。この感じで、是非ほかの部会でもいっていただきたいですし、そ

れから、時間配分までご協力いただいて、本当にありがとうございました。すごくレベルが高いご意見が多かったように思います。

私が、若干まとめさせてというか、大杉先生にご意見いただきましょうか。

大杉先生、何かありますか。

○大杉会長 今日、特に、ちょっとあえて言いません。

○平田部会長 あえて言いませんですか。はい、だそうです。お楽しみに。

○大杉会長 ちょっと幾つか言いたいこともないわけじゃないですけども、まあ、今の時点は。

○平田部会長 よろしいですか。はい。

じゃあ、私のほうから代わりにまとめというか。

大分、それぞれのところでまとめたんですけども、皆さん、目的を正しく捉えてくださって、まず、指標とそれから方向性については、すごく明確な意見をありがとうございました。すごく参考になりましたし、また、既存の枠組みにどうしても私たちは捉われやすいんですが、それが、すごく新しい、つながってみたり、交流してみたりとか。それから、今までデータに上がって来なかったものをデータ化することの見える化とおっしゃっていましたね。すごくよい意見が出たと思います。

こちらのほうが、まず、地域コミュニティのところなんですけれども、ここをちょっと最初にやったのは、私もあんまりちょっと考えていなかったんですが、結構量があるところで、ここは皆さんの意見がたくさんあるところなので、ここはもうちょっと時間を掛けてやればよかったのかもしれないけれども、もしあれでしたら、次回またご意見をお伺いしたいと思います。

ありがとうございます。ここもすごく参考になりました。何ていうんですかね、区と区民の方の関係というのは、なかなか難しく、区に、どんどんやってください。私たちは何もませんが、区がどんどんやるべきで、どんどんやってくださいという意見ばかりになっちゃうといけないんですけども、ちゃんと自分の理解も増しましょうということに気付いてくださったこの意見は、すごく素晴らしいなと思いました。こういうのも、やっぱり入れていったほうがいいので、区も頑張りますが、住民自身が何ができるかというのが、とても大事だと思いました。いろいろご意見、ありがとうございます。

それから、順番にいきますと、産業振興ですね。産業振興のほうは、これは、柔軟な意見が多々出たのが特徴です。おもしろかったです。継続年数だとか予算配分との関係。それから文京区とつながりがあるものを生かすとか、キャラクターと産業が結び付いている。それから商店街の選択と集中というのかな、なかなかおもしろい意見が多々出まして、後継ぎの問題とかも大事です。マーケット、何ていうんですかね、市場だからやっぱりマーケット、市場みたいな、市の設置。これは、最近の地域コミュニティの活性化でもすごく使われているものになります。

そして、最後、こちらですけども、生涯学習、文化振興、スポーツ振興については、もういろんな意見が出ましたので、それぞれは申し上げることができないぐらい多々あるんですが、や

っぱり、文京区の特徴を生かした様々なご意見、それから苦情もちょっと入っていましたね。苦情もちょっと入っていましたけれども、いろんなことが入っていて、やっぱり資産を生かす。文京区が持っている既存の資産というのにも、ハードなものソフトなものがあります。既存のハード、建物とか入れ物とか、そういうものを生かすご意見と、それから、新しいソフト、何か目に見えないけど、何かプロジェクトでも、何かイベントでもいいですね、そういうものを起こしましょうというご意見も多かったように思います。ハードとソフト混ぜてくださって、ありがとうございます。とてもよかったです。

皆さんにつける文句は全然ありません。このまま自由に言ってもらくと、素晴らしいご意見が多々出ることを、今日、私も学びましたので、もう皆さんがおっしゃってください。

また、区が聞いてくださいますので、プロの目を通して、耳を通して、どういうふうに指標化されてくるかを楽しみにいたしましょう。

じゃあ、よろしいですかね。

はい。私のほうのまとめは、もうこのままやってください。次回もこのままでお願いしますということで、ありがとうございます。

じゃあ、その他、何かお気付きのこととか、この進行の仕方についてご意見とかおありですか。

○大杉会長 ぜひ、その点は。

○平田部会長 はい、伺いたいです。何ですか。

○大杉会長 何か言いたいのは、先ほど、急に振られたので、私、言いたいことあるけれども言いませんと言ったのは、皆さんに対して言うんじゃないくて、とても今日は素晴らしい進行で、平田先生の進行も良かったですし、皆さんに非常にいいご意見を言ってもらったので、それに対して何か言いたいということではありません。また別のことですので、気になさらないでください。

○平田部会長 何か部会の関連に関するご意見がありましたら、承りますが、もうちょっと考える時間をくれないといけないよとか、いろいろ。まあ、時間がちょっと厳しいんですけども、こう、一杯なので。よろしいでしょうか。また、反省点は多々あるんですが、ご協力、本当にありがとうございました。

じゃあ、事務局のほうからお話をお願いします。

○加藤企画課長 いろいろとありがとうございました。それでは、事務局のほうから何点か確認させていただきますでしょうか。

まず、この部会の2回目です。次第にも書いてありますけれども、7月25日の月曜日、6時半から、この場所になります。

それとは別に、明日、また別の部会があります。今日参加されている方の中でも、何人か明日の部会に参加していただける方がいると思いますが、明日については、福祉・健康部会の1回目の部会となります。6時半からになりますので、よろしく願いいたします。

明日は、地下2階の産業とくらしプラザ研修室になりますので、お間違いないように願います。

それと、本日の資料につきましては、使っていないものもありますが、次回、2回目のときには、本日の資料をお持ちいただきたいと思います。

また、席上に冊子が3冊ありますけれども、こちらの方につきましては、席上に置いていただければ、また次回用意させていただきますので、よろしく願いいたします。

○平田部会長 では、今日は本当に、私たちも実はどきどきしてしまして、ご意見がいただけるか、それからうまく終わるのか、どきどきしていたんですけれども、皆さんが素晴らしかったと思います。それから、区の方も説明にご協力いただいてありがとうございます。拍手で終わりたいと思います。

ありがとうございました。